

J-19

辺野古における地域振興を目的とした複合施設計画 Complex facility plan for regional promotion in Henoko

佐藤信治¹, 桜井南実²
Shinji Sato¹, ○*Minami Sakurai²

In recent years, there are various problems in Okinawa Prefecture, which is troubled by Futenma base relocation problem. First of all, there is a problem about the degree of influence on the marine environment such as corals living in the surrounding ocean, and about the place to transplant rare corals. Furthermore, the number of standby children is second most in the whole country, it is the most severe in terms of population ratio, and even in Henoko, Okinawa Prefecture, Nago City, Okinawa Prefecture, which is in the midst of the problem of relocation of Futenma base station, standby children and standby elderly also tend to increase is there.

From the residents of Henoko who accepted the base facilities on the condition of promotion from the end of the war there is a feeling that they want to be a city that is more livingable. I would like to consider plans aimed at promoting Henoko that will make Henoko easy to live in town considering the problems of Okinawa Prefecture and promoting it. Specifically, we plan a complex centering on an aquarium that has the function to research and display coral. As a combined function, we will set up a place for event halls to encourage exchange with US military personnel who had been doing before. Furthermore, it is a place to train nursery teachers, a child nursery facility with an environment that allows multiple generations to interact, and a place where "local" residents can relax and attract tourists I will make it. Because it is a city with bases, history and sentences of Okinawa Prefecture. I would like to make it a facility that gives experience to experience.

1. はじめに

近年、普天間基地移設問題で騒がれる沖縄県では様々な問題を抱えている。まず周辺の海に生息するサンゴなどの海洋環境に与える影響の程度や、希少サンゴの移植場所についての問題がある。更に待機児童の多さが全国で2位に多く、人口比から見ても最も深刻であり、特に普天間基地移設問題の渦中にある沖縄県名護市辺野古でも待機児童や待機高齢者も増加傾向にある。

戦後から振興を条件に基地施設を受け入れてきた辺野古の住民からは、もっと暮らしやすい町になってほしいという思いがある。沖縄県の抱える問題を考察し、基地移設を考慮した辺野古を暮らしやすいまちに導く、振興を目的とした計画を行っていききたい。具体的には、サンゴを研究、展示する機能を有した水族館を中心とした複合施設を計画する。複合する機能として、以前から行われてきた米軍の人たちとの交流を促すイベントホールを設ける。さらに保育士を養成する場、多世代が交流できる環境を有した児童保育施設と高齢者施設を内包し、更に地域住民が憩える場と観光客を誘致させるような“しかけ”の場を複合させていく。基地を有したまちであるからこそ、沖縄県の歴史や文

化を体験的に伝えていくような施設にしたい。

2. 計画背景

2-1. 普天間基地移設問題

ニュースでも取り上げられる沖縄県の問題のひとつである普天間基地は現在、宜野湾市にある。世界一危険な基地と呼ばれるだけあり、住宅地の中に基地があるという現状で、それより人口の少なく住宅が密集していない静かな辺野古に移設する方がリスクは軽減されるという考えのもと移設工事に賛否が挙がっている。ここで辺野古へ基地を移設した場合に考えられるメリット、デメリットを挙げる。メリットとして、経済効果が見込めることである。デメリットとして、工事などで周辺の海洋環境に影響することや漁場が失われる可能性があることが挙げられる。

マスコミでは多くは取り上げられないが、座り込みなど反対派の大半は県外の人々であるという事実がある。その迷惑料を辺野古住民が支払うということもあるという。深く掘り下げていくと、反対派はデメリットを重く見て、そこだけが主張されてしまい、町をより良くしてほしいという本当の願いが隠れてしまっていることが見受けられる。

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2: 日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2-2. 名護市内の経済状況

国の主導によって移設工事は着々と進んでいる中、名護市の経済の活気が失われつつある。沖縄県全体の観光客数に比べ、名護市には目立ったリゾートもなく観光客には素通りされてしまっている。特に辺野古がある東側は、市街地のある西側に比べて"取り残されている"という思いが強く、地域格差が生まれているのも現状である。

2-3. 待機児童問題

前述のように、待機児童数は年々増加傾向にあるのが少子高齢化だが、なぜ子供の出生率が減少しているのにも関わらず待機児童が多いのかが疑問になる。それはバブル経済が崩壊した 1990 年代初め、共働き世帯が専業主婦世帯を上回り、保育所を必要とする親が増え、待機児童問題が顕在化したことが原因として挙げられる。

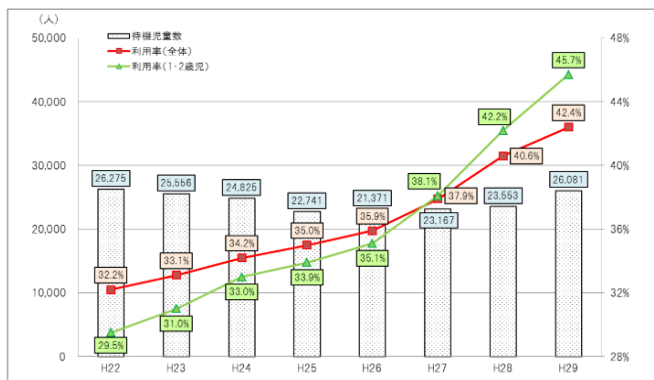


Figure 1. Changes in the number of waiting children such as nurseries and the nursery school utilization rate

表では、東京都が他県と比べ待機児童数が極めて多い印象を見受けられるが、これを人口比で考えると沖縄県は全国でワースト 1 位となる。その数字は全国平均の約 7 倍といわれる。データから、沖縄県が全国でも待機児童数がどれほど深刻であるかが分かる。

Table 1. Number of standby children by prefecture Worst 5

【都道府県別】待機児童数ワースト10(2017年4月)		
1	東京都	8,586人
2	沖縄県	2,247人
3	千葉県	1,787人
4	兵庫県	1,572人
5	福岡県	1,297人

また、保育士が不足していることも深刻な問題である。沖縄県宜野湾市で調査した結果、保育施設の 4 割以上が職員が不足していると回答し、有資格者からは休暇の取りづらさや給与面、事務・雑務の多さなどでの不満が聞かれた。保育士の働く環境をどう改善していくかが課題となる。

保育士としての仕事の満足度

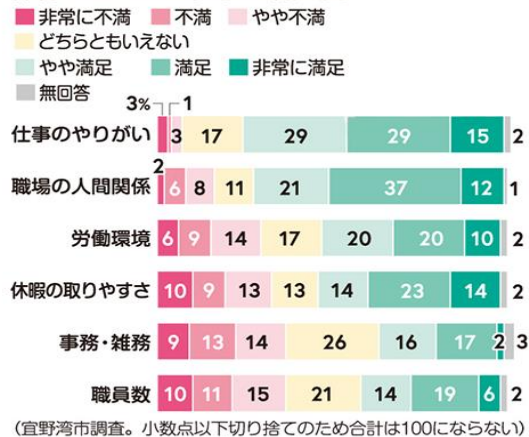


Figure 2. Ginowan City Questionnaire "Satisfaction of work as a nursery teacher"

3. サンゴ・サンゴ礁の価値

近年、温暖化現象による海水温上昇に伴うサンゴの白化現象が問題になる中、サンゴやサンゴ礁の価値が見直されてきている。主な価値・機能は次の通りである。

- ・ 周辺海の生態系を形成する
- ・ 高潮・波・浸食の被害からの保護
- ・ 精神的な癒しなど、景観的な価値
- ・ 建築建材としての価値
- ・ サンゴの環境変化に敏感な特性を活かした海洋モニタリング

中でも、風化造礁珊瑚がを加工してできる内装材は調湿効果やホルムアルデヒド吸着効果、断熱効果、マイナスイオン発生効果など建材として高機能を有する。当計画でも、サンゴの価値の認知につなげられるよう、建材として生活の場に取り入れていきたい。

4. 参考文献

- [1]「名護市長選：進まぬ振興、止まらぬ移設」,
- [2]「琉球新報-保育士不足 4 割超宜野湾市アンケート」,
- [3]「保育所等関連状況取りまとめ (平成 29 年 4 月 1 日)